

## 編集者のことば

本号は、本研究所のプロジェクト研究である「大都市の環境と地域社会に関する総合的研究」の一環としての研究成果としてまとめられた論文11編を中心に「都市社会と環境問題」と題する特集号を組むこととし、英文投稿論文2編のほか公開講演記録から編集した。内容は大きく四つの部分からなる。

一つは、産業廃棄物問題に関する5編の論文からなる。

飯島伸子研究員を代表者として行われた自治体廃棄物問題に関する社会学的調査の第2回目の共同報告で、この共同調査に参加された飯島伸子、藤川賢、掘畑まなみ、寺田良一及び鶴飼照喜の5人の研究者が5つのサブテーマを分担執筆されている。内容は「廃棄物問題と地域環境主義」「産廃処理の全国分布と地方負担」「原状回復の費用負担責任」「産業廃棄物問題における住民、自治体、地域環境主義」「産業廃棄物問題と自治体行政の課題」である。

つぎに、高齢者、在宅福祉活動、住宅、交通問題などに関する6つの論文である。高橋勇悦他「中国における都市高齢者の『生きがい』」は世界各国の都市高齢者の生きがいに関する比較研究の一環として、中国における都市高齢者の生きがいに関する面接記録とその分析をとりまとめたもので、とくにそれが友人関係・近隣関係などよりも仕事を通じての社会的貢献・奉仕と家族・親族の交流に深いかかわりのあることを明らかにした。原田謙他「住民参加型在宅福祉サービス団体の形成過程とその介助関係」は横浜市青葉区で活動するサービス生産協同組合「グループたすけあい」を事例に組織形成過程と活動の特質を分析し、とくに介助関係を中心とする活動に注目し、それを高齢者のプロダクティビティを生かした地域集団づくりの一つの試みとして位置づけた。矢部拓也「年賀状事例調査を通じての大都市のパーソナルネットワーク」は、年賀状を資料とした事例調査をもとに弱い紐帯をも含めた幅広い範囲を網羅したパーソナルネットワークの様相を把握し分析することにより、個人のパーソナルネットワークと社会構造との関連を明らかにしようと試みた。

橋田篤英他「分譲マンションの建替え手法と課題」は、旧同潤会中之郷アパートの建替え事業を事例に市街地再開発事業による建替手法を分析し、それが他の種類の建替手法と比べ実現可能性が高くかつ地区まちづくりの面からも有効性が高いことを明らかにするとともに今後の課題を提示した。藤田光宏他「公共交通不便地域における高齢者の自動車同乗に関する基礎的研究」は、自動車を用いての家族や知人による送迎という自然発生的な交通サービスを「自動車同乗」と規定し、高齢者やその家族を対象としたアンケート調査によりその実態を家族依存度が強くその意味で不安定で今後新しい補完的な仕組みも合わせて必要なことを明らかにした。浅見泰司他「都市道路網の知覚的類似度」は都市構造認知の手掛かりとしての道路網パターンの違いを表す指標としてグリッドパターン特性と放射パターン特性とを提案し実験分析し、道路ネットワークパターンを記述する上での本質的要素として道路の平均幅員と平均ノードオーダーが重要であることを明らかにした。

第三は投稿論文で、いずれも英文論文である。ロナルド・ボーゲル「世界都市東京の再考」は中央集権化と分権化という二つの圧力のせめぎあいという文脈のもと都区制度改革の過程を分析し、チャールズ・ビーアドやウィリアム・ロブソンの都政論を再考し、併せて21世紀の東京都政の課題を明らかにした。柴田徳衛「国分寺市の当面する財政問題」はバブル崩壊後における都市財政の実態と課題を国分寺市財政白書を中心に明らかにしたものである。

さいごに、研究所の第11回公開講演会「都市の環境と住宅・まちづくりの課題」の講演記録を収録した。

なお、専任研究員で元本研究所長の高橋勇悦教授は今年の3月をもって定年退職され、後任には松本康教授が就任された。